



「多様性」ってどんなこと? ③

# ジェンダーフリーって なんだろう?

著／稲葉茂勝・赤木かん子 編／こどもくらぶ



# もくじ

## 1 ジェンダー、よく聞けれど? ..... 6

- 生物学的性差・社会的性差
- 「性同一性障がい」と「心の性」
- 「障がい」というけれど
- 心の問題だけでない

## 2 LGBTは知っているけれど ..... 8

- 言葉の意味
- 「ジェンダーフリー」
- 日本のジェンダーフリー

## 3 ジェンダー平等はSDGsでも ..... 11

- 「GENDER EQUALITY」とは?
- ジェンダー平等はなぜ必要?
- 女性差別が起こる背景

## 4 ジェンダー平等がSDGsに組みこまれたわけ ..... 14

- さまざまな課題の解決が必要
- くもの巣チャートで考えよう!

## 5 SDGsの目標5のターゲット ..... 16

- 9個のターゲットからわかること

## 6 男女平等=ジェンダー平等? ..... 18

- なぜ女性に注目?

## 7 男女別トイレの廃止! ..... 19

- 男女共用トイレ

## 8 日本の男女格差 ..... 20

- ジェンダー不平等指数 (GII)
- 日本のGGIを下げる原因

## 9 日本のジェンダー平等のために ..... 22

- 女性も自分のことは自分で決定
- 「男女雇用機会均等法」のおもな内容
- 「男女雇用機会均等法」の問題点

## 10 日本社会の変化 ..... 25

- 放送禁止用語
- 「女性専用車両」をどう考える

## 11 「ジェンダーフリー」と「ジェンダーレス」 ..... 26

- 似て非なるもの

## 12 日本の学校もかわっているけれど ..... 27

- カラフルなランドセル

## 13 ジェンダー教育とその必要性 ..... 28

- ジェンダー教育が必要なわけ
- ジェンダー教育の目的と重要性
- SDGsが発表される直前
- もしもカミングアウトされたなら

## 14 特別寄稿 赤木かん子先生がすすめる本 ..... 30

- ①「ジェンダー」について参考になる本
- ②「LGBTQ+」について参考になる本
- 多様な「性」のなかで生きていくには
- トランスジェンダーのリアル

## 15 用語解説 ..... 38

## 16 さくいん ..... 39

# この本の見方・読み方

そのページの内容を短くまとめてあります。

青字は、キーワードや、とくに意識してほしいポイントを示しています。



大きな写真・貴重な写真でわかりやすく解説。

本文をおぎなうためのかこみ記事です。



著者(稲葉)が本文を書き、ところどころに赤木かん子先生が登場して、解説を加えます。

### コラムページ

この本では、p16-17、p19、p33、p36-37に本文を補完するかこみ記事を設けました。少し視点をかえることで、本文がより深く理解できるはず。

赤木かん子先生が各本のおすすめポイントを紹介。

特別寄稿ページの見方は、見開きの左下にのせています。



### 特別寄稿ページ

ここでは、児童文学評論家の赤木かん子先生がすすめる、本文をより深く理解するために役立つ本を紹介しています。

紹介している本は、「絵本」「漫画」「読みもの」「その他」の4つにわけ、それぞれにマークをつけています。

編集部による書籍紹介文の補足もあります。



# 6 日本の男女格差

10ページで見たとおり、日本は、ジェンダーギャップ指数 (GGI) が G7 (→p38) のなかではいちばん低い順位になっています。ここでは、もうひとつの資料を見て、日本の男女格差の実態にせまってみましょう。

## ジェンダー不平等指数 (GII)

男女の不平等を示す指標として、「ジェンダーギャップ指数 (GGI)」とよく似た「ジェンダー不平等指数 (GII: Gender Inequality Index)」という指標があります。これは、国連開発計画 (UNDP →p38) が発表しているもので、右の3側面における男女間の不平等に着目して算出され、0 (女性と男性が完全に平等) ~ 1 (女性と男性が完全に不平等) のあいだの数字であらわされます。

- 健康：妊産婦死亡率と15~19歳の女性の出生数
- エンパワーメント (能力開花)：国会議員の女性の割合、中等・高等教育における女性の進学率
- 労働市場への参加：女性の就労率

このGIIは、GGIとは全く異なる算出基準がつかわれているため、GGIと異なり、日本の順位は162か国中世界24位 (2020年発表) と、それほど低くはありません。なぜなら、健康面の指標と中等・高等教育の進学率の指標が良好だからです。

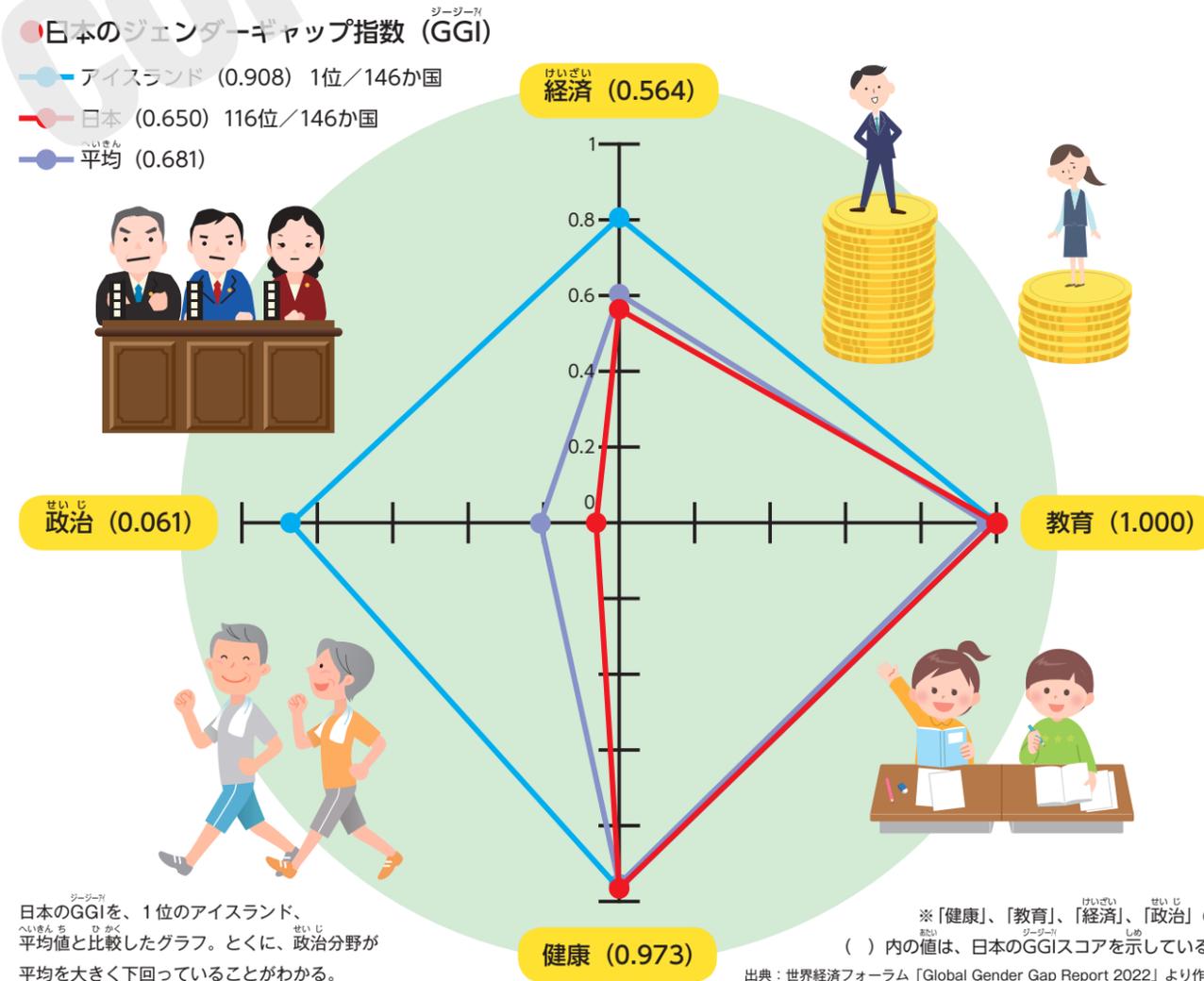
## 日本のGGIを下げる原因

2022年に発表された、日本のジェンダーギャップ指数 (GGI) は世界146か国中116位。なぜこんなに低いのでしょうか。それは、GGIでは「健康」「教育」「経済」「政治」の4つの領域で男女間の格差がどれくらいあるかを見るのですが、日本は「経済」と「政治」で大きく順位を下げてしまっているからです。

下のグラフを見ると、日本は「政治」と「経済」の分野での格差が深刻であることが一目瞭然。具体的には、政治分野では国会議員全体に占める女性の割合が外国と比べてとくに低い (大臣はさらに低い) ことなどがあげられています。経済分野

でも、家事も労働であるにもかかわらず報酬が出ないことや、育児、介護、看護などの重要な仕事でもお金が支払われないことなどにより、GGIが下がっています。つまり、男性がする労働はお金が入り、女性がやるべきとされる労働は無報酬ということから、日本のジェンダーギャップ指数が大きく下がってしまっているのです。

それにもかかわらず、内閣府がおこなった2014年の「男女共同参画」に関する世論調査では、「夫 (男性) は外で働き、妻 (女性) は家庭を守るべき」という考え方に賛成が44.6%、反対が49.4%でした。同じ質問に対して、2019年には賛成は35%に下がりましたが、男女の役割分担についての固定的な考え方はいまだに根強く残っています。



## 9 「ジェンダーフリー」と「ジェンダーレス」

9ページに記したとおり、「ジェンダーフリー」は社会的な性差による役割についての言葉ですが、「ジェンダーレス」は、「生物学的な性差にとらわれることをやめ、社会的、文化的な性差をなくそう」という考え方のことです。

### 似て非なるもの

別のいい方をすると、「ジェンダーフリー」は、性差による役割にしばられることなく、だれもが平等に自分が望む生き方を選択できるようにしようという意味です。たとえば、女性が結婚を機に仕事をやめて専業主婦になることがおかしいとはいわれないのに、男性が専業主夫になるといって

「へんだ」「めずらしい」といわれることがあります。そう考えることをなくそうというのが、「ジェンダーフリー」なのです。一方、「ジェンダーレス」とは、男女の境界をなくそうとする考え方で、性別に関係なく、男女ともに着られる「ジェンダーレスファッション」などがその例です。

このように、「ジェンダーフリー」と「ジェンダーレス」は似て非なるものなのです。



スカートは女性、パンツは男性といった考えにしばられない、ジェンダーレスなファッションを展開する「BAAKU」。近年、性別にとらわれず自分らしさを表現できるようなファッションブランドが増えてきている。

## 10 日本の学校もかわっているけれど

学校の制服で、男子生徒はスラックス、女子生徒はスカートと決められている学校は少なくありませんが、最近ではジェンダーレスの制服を採用する学校が増えています。男子生徒が、制服のスカートをはいてもいいという高校まであらわれました。

### カラフルなランドセル

かつて小学生のランドセルは、男子が黒、女子は赤がほとんどでしたが、近年ではランドセルの色がカラフルになり、男女で色が決まっているといったことはなくなってきました。

近年、このような生物学的な男女の性差を前提とした規則が廃止される傾向にあります。職業の呼称が男女のちがいに関係なく統一された（→p23）のと同じように、学校の制服もジェンダーレスの制服を採用する学校が増えているのです。男子生徒が、制服のスカートをはいて学校に来ているという高校もあるといえます。

制服メーカー「トンボ」が出しているジェンダーレス制服。性差を感じさせないように、ジャケットやスラックスは男女共通のデザインにしている。



2022年フットマーク社が販売を開始した、ジェンダーレスな学校用水着。体型のちがいがわからないような形状になっている。

# トランスジェンダーのリアル

「リアル」とは、現実という意味。トランスジェンダーの当事者たちが、自分たちのリアルなすがたを伝える冊子をつくろうと、資金をネットでつくり、2021年9月に第一弾を作成。全国の行政や教育機関、NPOなどに無償で提供しました。

## 当事者のリアルを伝えたい

エルジーピーティーキューブラス  
LGBTQ+という言葉は知っていても、当事者がどういう生活を送っているのかわからない。



下の文章は

トランスジェンダーのユウキくんが書いたものです。ユウキくんはわたしの友人で、1996年生まれです。当事者の気持ちが伝わってきます。みなさんは何を感じますでしょうか。

ぼくは男だけど女性体で生まれた、トランスジェンダーだ。

そのことが自分でわかる前、小学生のときは学校は不思議な違和感で満ちあふれていた。

たとえば作文の授業。女の子は「わたし」で男の子は「ぼく」で書きなさい、という指示があったんだ。でも、男の人でも、おとなは「わたし」をつかうことがあると知っていたから、なんで男の子も「わたし」じゃダメなんだろうと思った。そしたらぼくが「わたし」をつかって変じゃない、と思えたのに。つまり当時は気がつかないけどぼくは「わたし」をつかいたくなかったんだと思う。

日常でつかう一人称も女の子は「わたし」、「アタシ」。男の子は「ぼく」、「オレ」、みたいに男女できっちりわかれているのもとても居心地が悪

そのため、いろいろな誤解や偏見が生まれていることを憂慮したトランスジェンダーの当事者たちが、そのリアルなすがたを伝える冊子『トランスジェンダーのリアル』をつくりました。

冊子には当事者5人が登場し、これまでの手記と写真、職場・治療・学校といったテーマに



冊子は32ページ。

ついでにコメントやコラムのほか、家族の手記などものせています。冊子を多くのメディアで紹介してもらい、当事者の思いや、学校・職場での多様性への理解、子育ての際に知っておいてほしい知識などをとりあげてほしいというのが、作り手たちの願いです。

さらに、冊子をつかったパネル展やトークイベントなども開催。さまざまなメディアに取材



をよびかけ、積極的に広報活動につとめています。スタッフのひとり、まめたさん（一般社団法人にじず代表）は、「誤解や偏見を払拭し、まずは当事者が感じていることを知ってほしい」と語っています。



「トランスジェンダーのリアル」のパネル展。写真は2022年9月に、東京都国立市の市民プラザにある「く」にたち男女平等参画ステーション・パラソル」でおこなわれたもの。パラソルでは、ジェンダーや生き方をテーマにしたお話し交流会なども定期的に開いている。

で平気でいられるのかいつも不思議だった。

こういうたくさんの違和感の理由がわかったのは、高校生になって、自分がトランスジェンダーだと気づいてからだ。

「わたし」は「ぼく」で、女の子じゃなくて男の子だから、女の子のすることをしたくなかったんだなって。

これを読んでいるみんなのなかにも、こういう違和感を感じている人がいるかもしれない。

そのままにしておくのもいいし、どうしてなんだろうと考えるのもいいと思う。

これまで20年ちょっと生きてきて、知ること、できることを増やしてくれることだということをぼくは知った。

少なくとも、何もわからなくて大混乱してたときよりも、知ってからのほうがうんと心が軽

くなって生きるのが楽になったのは事実だ。

そこまでたどりつくのはものすごく大変だったけど……。

でも、考えたら新しい道が開けるかもしれないけど、今は考えたくないな、と思うなら、無理に考えなくていいとも思ってる。

だって、きみはまだ若くてやわらかい。

もしかしたら、自分はこうだ、と思ってることがホントはちがってたってことだってあるかもしれないんだ。

だから今は、自分がいちばん楽になるやり方で生きのびればいいと思う。

考えるのも決めるのも、いつだってできることなんだから。